

セキュアプラクティス導入事例

体験を通じて、当事者意識の醸成と理解度を深める

セキュアプラクティス

株式会社東武ホテルマネジメント様

組織規模 | 従業員約 650 名

ご担当者様の所属部門 | 情報システム管理部



TOBU HOTELS

株式会社東武ホテルマネジメント様は、東武鉄道が中心となって展開している東武グループに属しており、東京・埼玉・千葉・栃木に 10 ホテル・1 レストランを運営している会社です。それぞれの地域特性を重視したコンセプトをもとにホテルづくりを実施し、遠来のお客さまへのおもてなしと、地域のお客さまにコミュニティーの場を提供することを目的に事業を展開しています。

・ 目的

監査において、教育面の弱さを指摘されたことによる対応と情報システム管理部のリソース不足対策。

・ 課題

動画視聴、文面による研修は行っていたが、インシデント発生時の初動対応が遅れることがあった。

・ 効果

セキュリティ教育レベルが上がっただけでなく、少数精鋭な情報システム管理部のリソース問題も解消。

システム部門の人員不足により教育に十分な時間を割けていなかった

これまで株式会社東武ホテルマネジメント様では、動画視聴や文面でのセキュリティ教育を独自で行い、また親会社からの標的型メール訓練を年 3 回実施されていました。

しかしながら、2023 年の監査でセキュリティ教育への弱さを指摘され、対策をどうするか考えていたとのことでした。

ただ、現状では 11 事業所（10 ホテル・1 レストラン）の IT 関連を 3 名の情報システム管理部メンバーで対応するというリソース不足に加え、サービス業という業態柄、新入社員だけでなく、パート・アルバイトスタッフが時期を問わず入社し、その度にアカウントを発行したりと、運用面でも大変さを感じていたとのことでした。

また、インシデント発生時の対応にも課題を感じておられ、ヒヤリハットを経験されたこともあったそうです。

宿泊施設などでは、国内外問わず多くの個人情報扱っていることもあり、こうした状況へ迅速に対応できる教育が必要であると感じていたとのことでした。

日頃使用している画面に近く、ライセンス数によって費用が変わらない点が決め手に

こうした人員不足やインシデント発生時の対策として、セキュアプラクティスの導入を検討された、東武ホテルマネジメント様。

決め手としては、「日頃使用している画面に近い」「インシデント発生まで体験できる」「ライセンス数によって費用が変わらない」という点を挙げられました。

日頃使用している画面に近いとは、メールの画面などが実際に被害を受けているようなリアルな作りであることで、それが教育を受ける現場のメンバーに危機感が伝わりやすいとのことでした。

セキュアプラクティスは、ドメインや部署名を導入いただいた企業のものにカスタマイズできるため、より実践に近い訓練を受けることができます。東武ホテルマネジメント様からもカスタマイズ面をご評価いただきました。

また、新入社員を含め採用拡大をしていく中で、セキュアプラクティスがライセンス数によって費用が変わらないという点も導入において、大きな決め手になった、とおっしゃっていただきました。

新入社員研修で感じた受け手の興味・関心

新入社員研修にて、実際にセキュアプラクティスを使用したところ、座学や口頭説明では、受け手に聞いてもらえているのか分からなかったものが、実際にこういうことがあるんだと、興味を持って受けてくれたとのことで、実感値も高まったそうです。

また、これまでの標的型メール訓練では何かがあっても「あ、これは訓練だった、良かった」で終わってしまうこともあったため、実際に開いてしまうとどうなるのか、その先まで見てもらうことができたことも大きかったとのことです。

レポート機能により受講者、未受講者の管理が簡単に

東武ホテルマネジメント様では、これまで動画視聴による研修を行っていましたが、閲覧履歴が残らず、受講記録のため書面にサインをして提出してもらい、その管理も EXCEL の管理台帳を作成・運用していました。

セキュアプラクティスにはレポート機能があり、受講者・未受講者の管理が容易になります。11 事業所、約 650 名の IT 管理を 3 名で行っていた情報システム管理部では、運用面でもメリットが大きい、とおっしゃっていただきました。

実際に改善策を提出する際も、レポートを簡単に出すことができ、情報システム管理部のセキュリティ教育にける時間の削減にも繋がったとのことです。

教育方法を模索している、社員数が多い企業にはセキュアプラクティスがおすすめ

今回、教育系のセキュリティソリューションの紹介を受けたのはセキュアプラクティスが初めてとのことで、これまではそういったソリューションを知らなかったとのことでした。

ライセンス数が無制限、レポート機能がある点から、社員数が多く管理コストがかかってしまう企業には、セキュアプラクティスをおすすめしたいとおっしゃっていただきました。

また、今回は導入初回のため、一度に 3 つのシナリオを全て受講してもらったが、今後の展開として年に 2～3 回機会をつくり、常にセキュリティ意識の高い組織にしていきたい、とおっしゃっていただきました。



セキュアプラクティスについて

世界的に被害が出ており、問題にもなっているサイバー攻撃。日本国内においても、多くの被害やヒヤリハットが出ています。特に近年のマルウェア被害の傾向や話題に上がることも多い「Emotet (エモテット)」や「ランサムウェア」、これらの対策が各企業に求められており、従業員の多い中堅・大企業においては、現場レベルへのセキュリティ教育に悩まされている。という話もよく耳にします。セキュアプラクティスは、現実に近い場面を設定し、マルウェアに感染した疑似体験を通じて物事を考える際の客観性を高める、ロールプレイング形式の体験型教育ツールです。

クライアント数無制限※

1年間いつでも何回でも利用可能

※作成するシナリオ上の社名・団体名は1種類となります。

※複数作成する場合は別シナリオとしてカウント致します。

セキュアプラクティスについてのご質問・ご相談は、株式会社ハイパー | セキュリティ推進部まで

<https://www.securitier.jp/security/ciso/cisosp/>

© Copyright 2024 HYPER Inc.

記載されている情報は取材におけるものであり、閲覧されている時点で変更されている可能性があります。ご了承下さい。

本書に記載されている技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記事事項は 2024 年 5 月現在のものです。